

産地戦略

実施主体 かながわオーガニックコミュニティ協議会
 都道府県 神奈川県
 対象地域 伊勢原市、秦野市、海老名市
 対象品目 露地ニンジン

実施期間 令和6～10年度



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
● 有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

本県での新規の有機農業を含む環境保全型農業実施者の問題として、借り上げたほ場の土壌理化学性の不安定や省力的で体系的な作業体系が確立していない等があり、未利用廃棄物の地域内資源循環の促進の必要もある。

そこで、土壌分析に基づいた地力増進及び施肥管理、陽熱プラス（太陽熱土壌養生処理の新規技術）を活用した抑草、ニンジン栽培における省力化技術を体系的に示すことで作業指標の例を示す。また、県内で製造される地域未利用資源（食品廃棄物）のたい肥を活用することで、資源循環型農業の普及に寄与する。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名				基肥施用	ニンジン栽培								
技術名				播種・間引き・薬剤散布3回・除草									

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名				土壌分	コーヒー粕たい肥施用	土壌分	短尺ソルゴー栽培	土壌分	ヘイオーツ栽培				土壌分
技術名				県央地域未利用資源堆肥の活用	緑肥の活用		緑肥の活用						
← ニンジンと緑肥の栽培体系 →													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	土づくり	土壌分	基肥施用	土壌分	太陽熱消毒	土壌分	ニンジン栽培		土壌分				
技術名	有機JAS認証資材を利用した土壌改良資材による土づくり	有機JAS認証資材を利用した資材による施肥		陽熱プラスによる確実な殺雑草種子効果	1粒播種・不織布(バイオパオ)+遮光ネットの被覆による軽労化		除草工程の削減(陽熱プラスによる)						
← ニンジンと緑肥の栽培体系 →													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	5.4	▶ 5.4	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.4	▶ 0.6	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0.4	▶ 0.6	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	0.4	▶ 0.6	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	・堆肥の活用（豚糞堆肥） ・土壌分析（一般的な化学性検定） ・緑肥の活用（ソルゴー）	▶ 新たに取り入れる技術 ・県央地域未利用資源堆肥（コーヒー粕堆肥）の活用 ・土壌分析（化学性（CEC、可給態窒素等）、生物性検定） ・緑肥の活用（短尺ソルゴー等省力的な品種）	土壌分析で可給態窒素等土壌の肥沃度を測定しながら、有機農業における堆肥や緑肥による土づくりの効果を確認
環境	一般的な石灰、苦土、リン酸資材（苦土石灰、重焼燐など）を投入した土づくり	▶ 有機JAS認証資材を利用した土壌改良資材（陸王、乳酸卵殻、リンサングアノ）による土づくり	土壌の化学性のバランス（石灰、苦土、カリ、リン酸など）が改良され、作物の生育、収量が向上
環境	一般的な化学肥料を利用した施肥	▶ 化学肥料を使用しない有機JAS認証資材を利用した資材（圧搾菜種油粕）による施肥	有機JAS認証資材の特性とニンジンの生育、収量への効果の把握
省力	通常の太陽熱養生処理または実施しない	▶ 太陽熱養生処理（陽熱プラス）	陽熱プラスによる確実な殺雑草種子処理と除草行程の削減（除草剤散布の削減含む）
省力	もみがら被覆 + 散水	▶ 不織布（パオパオ） + 遮光ネット（遮光率65%）の被覆	かん水作業の省力化及び発芽率向上
省力	2～3粒播種、かん水、間引き等栽培管理作業	▶ ニンジンと緑肥の栽培体系構築	ニンジン一粒は種等による体系的な省力栽培

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
省力	太陽熱養生処理（陽熱プラス）（作業工程・回）	4	▶ 0	除草剤散布、除草回数の削減（回）
省力	人力は種機を用いた1粒播種（コーティング種子）栽培（作業工程・回）	1	▶ 0	ニンジン間引き回数の削減（回）
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

かながわオーガニックコミュニティ協議会では、ニンジン苗立率の向上により技術をより確かなものとするため、実証試験を継続し、技術のPRを行っていく。また、環境保全型農業実施者や慣行農家へ本技術の周知を行い取り組みを推進し、フォローアップを行っていく。

関係者の役割

関係者名	かながわオーガニックコミュニティ協議会	神奈川県農業技術センター普及指導部
役割	グリーンな栽培体系による栽培の実践 技術のPR	有機農業の生産安定化のための技術指導 技術のPR

その他